

好きなことは寄ってくる、大切なのは信用、研究でも

早見 均 はやみ ひとし
 商学部 教授

計量経済学・統計学を使った環境や労働経済への応用。最近、機械学習や深層学習といったはやりものテーマが増えてきた。全体で40人くらい。

「○○君、いない？ じゃあ、天気がい

いから散歩に行くか！」絶滅危惧種の経済価値という名目で植物や寄生虫を見に行く。「親近感湧くよね」と言っていたのは10年ほど前である。ここ数年は劇的变化をとげる。統計ブームか、実は下楽なゼミというのが広まったか。しかし、2人までと言ったのに4人で学生コラムを書いたという。妙に仲良しになるのは昔と変わらない（陰の2人は小杉葵君と小野田恵実君）。

労働経済学という複雑すぎて新鮮味のない分野で、教授たちのもとで計算していた院生時代。その後、数ギガサイズのリンクしたマイクロデータを脆弱な32ビット版PCで動かしていた。並行して大気汚染やCO₂排出と産業連関表をつないだ研究を始め、単純すぎ、でも新しい情報^が得られることがわかった。植林の炭素吸収量の計算や宇宙太陽光発電のアセスメントなどにも関わった。結局、環境問題は経済を離れて政治が中心となる。ただ、自分の研究では、もともと好きだった宇宙や植

物の方から近づいてきた。

おもしろいと感じるには学習が必要である。ゼミでは、どれだけ自分にとっておもしろいテーマを探せるかが決め手となる。安直なテーマを選んでしまうと、膨大な研究蓄積を相手にしなければならぬ。さもないと結果が「信用」されない。體育會の学生だけでなくみんなスポーツが好きである。いまだきの楽しみ方は、オブジェクト・トラッキングで選手の動きを数値化し、それを可視化する。疲れずに相手に追いつかれずに走ったことが得点になることがわかる。体のポーズを数値化して、ウェーブレット解析をする。ビデオではわからない違いが世界レベルの選手との間に出てくる。「スポーツ・アナリティクス、それは産業だよ」と英国の友人に教えられる。カネになるらしいことはわかったが、まだ私にはスポーツ統計はおもしろくない。半学だからだろう。ゼミ生は信用を得るためにちよつと真剣に自分と向き合っている。

多様性のあるテーマを統一的な手法で解析する

キムジョンア なかがわちかこ
 金貞娥君・中川智佳子君 商学部4年

私たちの研究会では、RやRStudioを用いた統計分析について学び、その手法を用いて環境・労働経済をはじめとしたさまざまな課題を分析しています。特徴は、研究テーマのジャンルの多様さです。経済に関連したテーマ以外にも、趣味や部活に関連した研究も数多く行われており、文学やスポーツなど多岐にわたります。また、早見教授はゼミ員一人一人に親身に寄り添って相談に乗ってくださり、その優しい人柄に惹かれて研究会に入る人も多くいます。研究活動以外にも、天体観測やJAXA見学、自然観察などさまざまな交流の機会も設けられており、楽しみながらゼミ活動を行うことができます。



広い視野でリアルな問いを探る過程を支援する

課題の解決に向けて研究的な視点を養うこと・周産期（出産前後の時期）のケアの根拠となる知見を活用できることを目指し、少人数で開講しています。

辻 恵子 看護医療学部 准教授

母性看護学・助産学は、主に新しい命を迎える時期にある女性や家族を対象としています。妊娠・出産により女性のからだと心はダイナミックに変化しますが、そこに至るまでにいくつもの意思決定の過程が存在します。

私は4年次のプロジェクト（学部ゼミ）と助産師選択コース（助産師国家試験受験資格取得コース）を担当しています。学部ゼミでは主に周産期にある人々の経験を深く理解し、見出された課題やより良いケアの方法を研究的な視点で探究します。近年、社会問題となっている育児不安や産後うつ、低出生体重児の家族ケア、先天性疾患を持ちながらエンパワメントする人々の体験、不妊に関する課題など、学生の興味や問題意識は多岐にわたります。学生の自由な発想は大切に行っています。早くにテーマを絞り込まず、広い視野で柔軟に周辺領域を掘り起こしてみることの大切さを伝えています。それを学生自身のリアルな“問い”に育て、言葉にしていく過程を支援してい

ます。先人が築いた知見に尊敬の念を持ちつつ、文献を批判的に読みすすめることから始まります。学生が自分の疑問を他者と共有できる言葉に置き換え、生き生きと自身の考えを表現するとき、そして困難感を覚えながら、論文を書き上げ、達成感を言葉にすると、期待に胸が弾みます。

一方、助産師選択コースでは、自身がフィールドで提供する周産期ケアがどのような根拠に基づき検討されているのかを、基盤となる理論や既存の研究から探究しています。研究的な視点を持ちながら“知識を活用する力”を養い、確かな根拠のある助産ケアの習得を目指しますが、ゼミ生とコース履修者との合同演習は、異なる強みを持つ者同士の間で良い刺激を生んでいます。活躍の場は異なりますが、卒業後は同じ目標に向かって協同する私たちの仲間になります。彼らの熱意あるたたくまいに触れるとき、母性看護学・助産学の視座から社会に変革を起こすのは彼らではないかと思うのです。

学びの密度が高い場所

とみた やすよ
富田祥代君 看護医療学部4年

辻ゼミでは母性看護学分野における自分の学びたい事柄や興味のあるテーマを探究することができます。現在、育児期にある父親へのサポートについて検討していますが、自分はなぜそう考えるのか、なぜこの研究が必要なのか、などの大切な問いを論理的に他者に説明できる力をつけられる場所です。自分の考えや疑問を積極的に発信し、フィードバックを得ることができるので、学びの密度がとても高いです。先生が担当されている助産師選択コースとの合同演習にも参加できます。私は来春、助産学を学ぶために大学院に進学するので、そこでは将来助産師として働くうえで大切な視点や多角的な視野を得ています。

